

情勢報告（令和２年７月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

地域のユズ生産について考えよう！ ～大砂子柚子生産組合研修会～



研修会の様子

6月23日、大砂子集落集会所でユズ研修会を開催し、大豊町大砂子柚子生産組合の生産者、役場、JA、普及所の計11人が参加しました。

普及所からは、本年度の生育状況、今後の施肥・病虫害管理、集落営農組織に対する支援事業について説明しました。

生産者からは「青果生産に向けて共同利用の防除機を購入したが利用率が低い。オペレータの料金も設定しているので、活用して欲しい」との声が聞かれました。

大砂子柚子生産組合では新植されたユズの生産拡大が予想されることから、普及所はJAと連携して、幼木時からの栽培指導、省力機器（粗選果機、チップパー等）の導入等、青果生産に向けて支援します。

令和２年度の嶺北農業改良普及所の活動計画について協議しました

～第１回嶺北地区普及推進協議会～



２年度の活動計画に関する
意見交換

6月24日、普及所で第１回普及推進協議会を開催し、農家代表や関係機関の委員11名に今年度の普及指導計画について説明しました。

委員からは「日射比例かん水制御装置による少量多かん水によって、吸肥量が促進されるデータが事業の導入につながった」「ユズの収入増加のためには、弱毒ウイルス苗の生産拡大が必要」など、活発な意見が出されました。

また、「本山町のスマート農業の動きについて」（情報提供：本山町）や、「新型コロナウイルス感染症に対する支援策」など、地域の農業振興に関する情報も提供しました。

普及所は推進協議会で出された意見を参考に、令和２年度の普及指導活動に活かしていきます。

酒米穂肥時期の検討 ～‘吟の夢’現地検討会～



葉色を計測し、穂肥量を指導
する普及員と生産者ら

7月11日、土佐酒造酒米生産者組合は本山町、土佐町で現地検討会を開催し、生産者9名、土佐酒造職員1名が参加しました。

土佐酒造酒米生産組合は、化学肥料や化学合成農薬の使用量を慣行の1/2以下にした特別栽培により‘吟の夢’を生産しています。

普及所は今後の栽培管理や病虫害対策の注意点を周知し、生産者毎にイネの葉色と幼穂の長さを計測して、穂肥の量と時期を指導しました。生産者からは害虫のカメムシや、穂肥の適正量について質問や意見が多く出され、高品質な酒米生産に向けた意欲がうかがえました。

今後も生産組合の活動を支援し、高収量、高品質な酒米の生産に取り組んでいきます。

夏期のユリ定植に係る作業の効率化に向けて
～カイゼン現地コンサル及び意見交換会～



現地で普及員が撮影・配信する定植作業動画を見ながら、意見交換

7月14日、大川村のオリエンタル系ユリ生産者の定植作業等について、カイゼンに取り組みました。

当初計画では、外部講師のカイゼンマイスター2名らと現地で定植作業を視察する予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、定植作業をライブ配信し、マイスターから助言をいただきました。

事前に撮影していた動画と比較して作業スピードが上がっており、これを数値化し作業員と共有することになりました。

今後、普及所は今回の提案等を整理し、生産者と共有して今後のカイゼンにつなげていきます。

栽培管理を見直そう ～JAれいほく米ナス部会現地検討会～



普及所からの説明を熱心に聞く生産者

7月16日、JA高知県れいほく米ナス部会は、本山町で現地検討会を開催し、部会員10名が参加しました。

JA高知県れいほく営農経済センターの営農指導員からは、圃場の概要とれいほく米ナスフェアの開催について説明がありました。

普及所からは、梅雨から夏期にかけての栽培上の注意点と、病害を抑制する台木の選定について説明しました。

生産者は、ほ場を見学しながら、栽培管理や病虫害対策について活発な意見交換を行っていました。

今後もJAと連携して品質の向上と安定生産に向けて支援していきます。